

# 豪雨強風監視システムと短時間降雨予測手法の開発

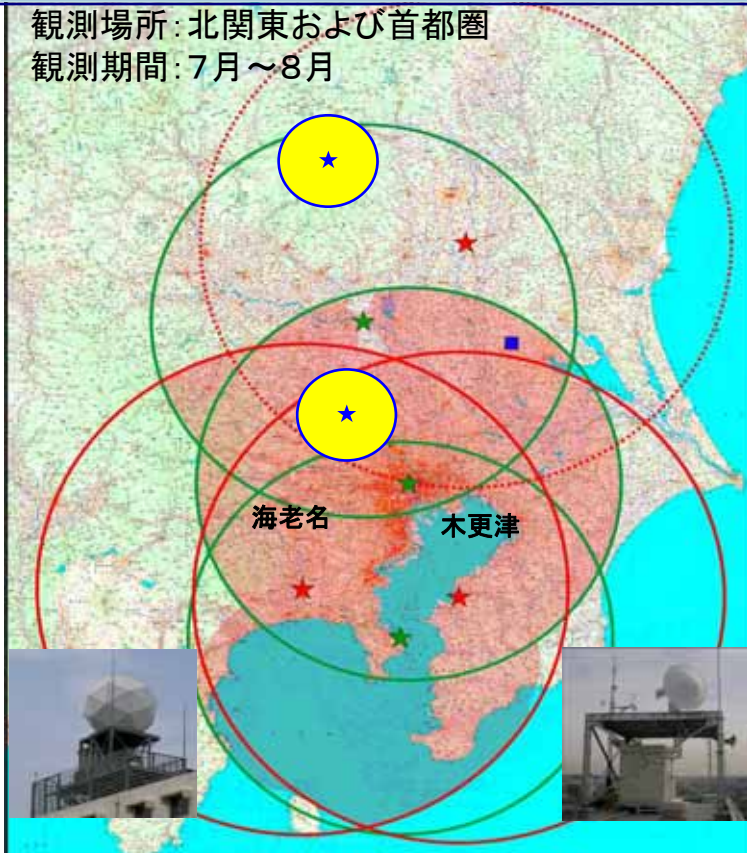
平成20年夏にゲリラ豪雨が各地で発生し、河川や下水道の急激な増水、道路凹地での車浸水による死亡事故が起っており、ゲリラ豪雨の予測技術の開発が急務。

ゲリラ豪雨は急速に発達するために、予測のためには雲の発生段階を捉えることが重要。

MPLレーダと高感度の雲レーダにより積乱雲の初期発達段階を観測し、ゲリラ豪雨の予測技術の開発を行う。

## 首都圏XバンドMPLレーダネットワーク

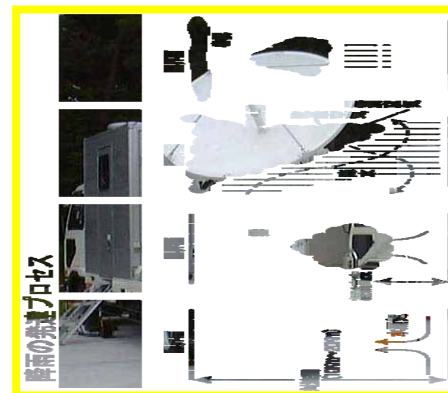
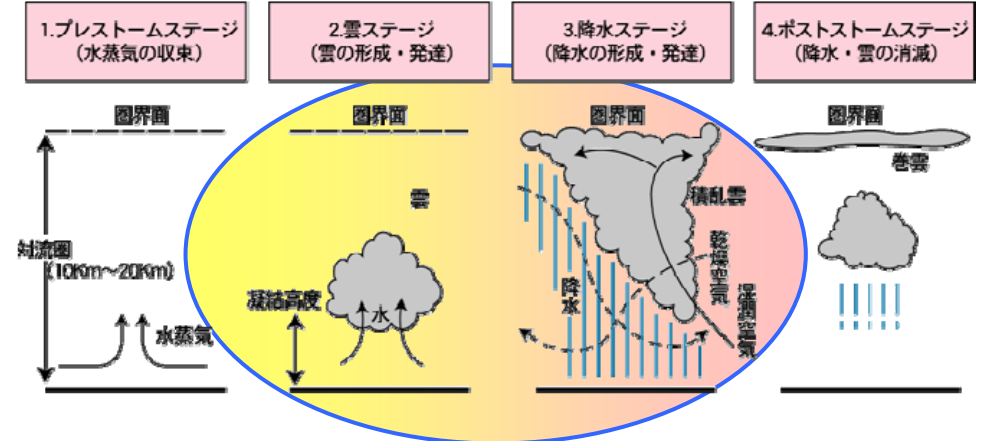
観測場所：北関東および首都圏  
観測期間：7月～8月



## 積乱雲の発生段階をとらえる → ゲリラ豪雨の予測



## 降雨の発達プロセス



高感度雲レーダ(車載型)



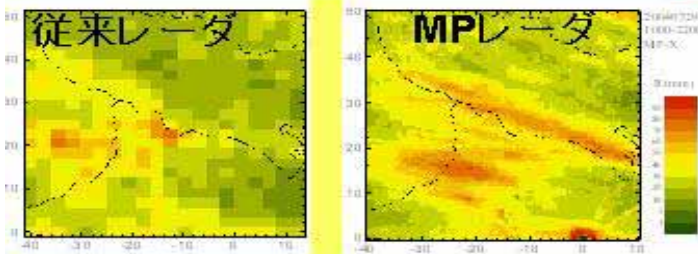
XバンドMPLレーダ

# MPレーダを用いた土砂災害・風水害の発生予測に関する研究

## MPLレーダによる降水量推定技術の開発



降水量分布実測例



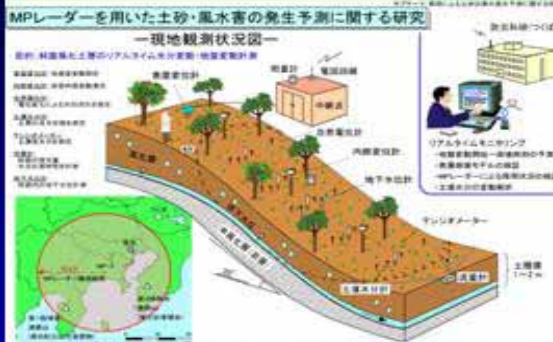
2.5kmメッシュ、30分

500mメッシュ、1分

**空間分解能25倍  
時間分解能30倍  
に高度化**

MP: Multi-Parameter Radar

## 現地斜面観測



## 大型降雨実験



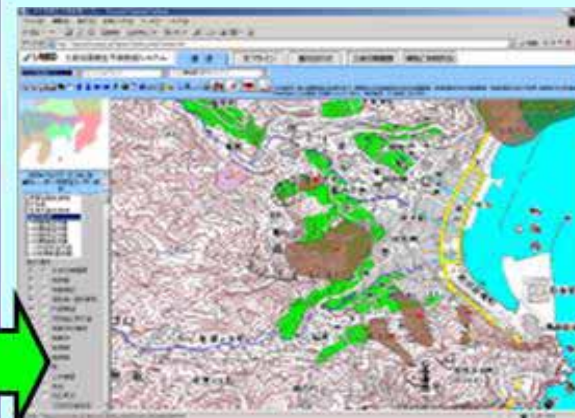
## 実時間浸水被害危険度予測システムの実用化



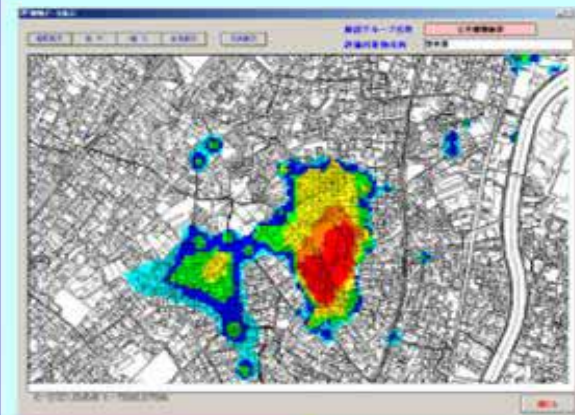
都市の排水機能の考察等

## リアルタイム発生予測システムの実用化

### ○斜面崩壊の危険度評価



### ○都市型水害の予測



10mメッシュ、10分毎で  
1時間先を予測